

## 第2回 企業技術説明会 発表技術一覧

No.	技術名称	使用可能な工事	技術概要	開発会社
1	3次元レーザースキャナによる空間計測工法	海岸護岸養浜工事	3Dレーザースキャナにより、工事箇所全体を最小で1mmの間隔で3次元計測する。離散的なデータではなく、面としての連続的なデータを取得する。	㈱トップライズ
2	波浪共振型消波工法	消波の必要な防波堤・波除堤・護岸・岸壁・物揚場	形状の異なる複数のユニットを組合せ形成される後壁とカーテン版に囲まれた遊水室に発生する波浪共振現象を利用して消波を行う直立消波函を構築する技術	株式会社 三柱
3	TP(チタンカバー・ベトログラム被覆)工法	鋼管杭の防食工事(港湾、河川等の基礎鋼管杭)	本工法は、河川、海岸、港湾にある橋梁基礎鋼管杭や棧橋基礎鋼管杭をベトログラム系防食材とチタン製保護カバーで被覆する防食工法である。ベトログラム系防食材をチタン製保護カバーで覆ったことで、保護カバーの材料劣化や耐衝撃性が向上して優れた耐久性を発揮できる。従来はFRP製保護カバーを用いている。FRP製保護カバーは紫外線劣化や漂流物の衝突で損傷し、防食効果が低下する恐れがあった。	日鉄防蝕株式会社
4	エキスパッカーN工法	地盤強化、液状化対策	ジオフィルターNとジオバッグを装着した特殊な注入外管を使用し、注入内管にも特殊なトリプルパッカーを使用する。このことにより、孔壁の崩壊を防止し浸透空間を確保することができ、確実な浸透源を確保し、均質な注入を確実に実施することが出来る。そのため従来工法に比べ、相対的に低圧・低速度の注入ができる。また、浸透源を大きくすることにより、大型改良体(φ3m程度)の造成が可能となる。使用する施工機械は小型のボーリングマシンである。	日特建設㈱ほか
5	渦消波型長周期波対策工	長周期波対策工事	渦消波型長周期波対策工は、1ユニットについて2枚の導水板とスリット部および側壁と背後壁に囲まれた遊水室により構成されるものであり、スリットの効果で波エネルギーを流れエネルギーに転換させ、長周期波の反射率を小さくできるものである。直立消波ブロックにより導水板を構成することで、うねり等に対する消波性能も有する。	五洋建設株式会社
6	バックホウ型スーパーグラブバケット(SGB)浚渫工法	汚染土壌の浚渫工事、運河や河川湖沼などの浚渫工事	スーパーグラブバケット浚渫工法は、新開発の特殊密閉グラブバケットと薄層浚渫支援システムから構成され、高い密閉性能および高精度の水平掘り機能を有する。これにより、濁りの発生や余分な土砂の取込みを極限まで抑制でき、汚染底泥の浚渫工などにおいて、環境に配慮しつつ処分費を含めたトータルコストの縮減を図れる。	東亜建設工業(株)
7	海藻植え付け方式による藻場造成ブロック工法	自然協調型の海洋構造物(防波堤、潜堤など)	コンクリートブロックに繊維樹脂を取り付け、そこにコンブ目海藻の母藻を取り付けることによって、海洋構造物に藻場造成機能を付加する技術。	本間コンクリート工業株式会社
8	ペルメックス	混成堤、傾斜堤、潜堤等の港湾・海岸構造物のマウンド等の被覆	本製品は、混成堤マウンドや潜堤、人工リーフ等の被覆に用いる新しいブロックである。従来、波浪の厳しい条件におけるブロックは、大型化により安定性を確保してきたが、大型化に伴う工費の増大や重機の大型化等の課題があった。ペルメックスは従来の被覆ブロックに比べて大幅に安定性が向上しており、上記のような課題を解決した。また、経済性に著しく優れるとともに、海域環境との共生や環境負荷の低減といった環境への配慮をして開発した被覆ブロックである。	株式会社 不動テトラ
9	ソイルクリーンシステム(ソックス工法)	ダイオキシン類汚染底質の無害化処理	ソイルクリーンシステム(ソックス工法)は、ダイオキシン類汚染底質に対する浚渫、前処理、焼成によるダイオキシン類の無害化、処理土造粒までのトータル処理システムであり、浚渫土の性状、堆積状況及び処理後の要求性能により、それぞれを組合せて効率的に運用を図る技術である。説明会では、工法の特徴、適用による効果、適用事例(実用化試験結果)などを報告する。	(株)本間組、株木建設(株)、日本リサイクル技術(株)、(株)アクトリー